

2025年度企画展

日本常民文化研究所の100年

——人々の生き方を問う知の博物誌



渋沢敬三(新潟県北魚沼郡湯之谷大湯 1936年7月12日)

2025年 10月1日(水) ~ 12月6日(土)

■ 会 場 神奈川大学横浜キャンパス3号館1階 企画展示室

■ 開室時間 10:00 ~ 16:30

■ 閉 室 日 日曜日・10/11(土)・13(月・祝日)・18(土), 11/15(土)・29(土) ※ただし、10/26(日)・11/2(日)は開室。

■ 観 覧 料 無料



神奈川大学日本常民文化研究所

Institute for the Study of Japanese Folk Culture Kanagawa University

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎ 045-481-5661(代表) <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>



2025年度企画展

日本常民文化研究所の100年 ——人々の生き方を問う知の博物誌

神奈川大学日本常民文化研究所は、前身であるアチックミュージアムソサエティが「アチック・ミュージアム」と改称し本格的に活動を開始してから今年の2025年で100年を迎えました。アチックとは屋根裏の意味です。はじめは渋沢栄一の孫であり、第一銀行副頭取・大蔵大臣などの財界の要職を歴任した渋沢敬三が大学生の時に自宅の物置小屋の屋根裏につくった博物館でした。貴族や武士の階層ではない普通の人々である常民に着目し、古文書や民具・映像などの多様な資料を集めて、人々が生きてきた姿の研究に取り組みます。その活動は画期的な研究成果をあげるとともに、学問を学界から世に開き公共のものにしていく道すじを立て、日本の博物館やアーカイブズ、文化財保護、出版にも大きな影響を与えました。在野のユニークな研究所が神奈川大学に招かれ附属施設として発足したのは1982年。それから40年以上を経て、国内外の研究者と交流し、学生の教育にも寄与する学術研究の拠点に成長して今に至ります。

今回の展覧会は、神奈川大学に来て初めて本格的に行う日本常民文化研究所そのものをテーマとするものです。人類と学問の未来を信じた渋沢敬三がつくり、常民の生活の歴史と民俗を調べてきた研究所は、どのような人々が集まり、何を成し遂げてきたのでしょうか。100年の足取りをたどることを通じて、次の100年に向かう先をともに考えていきたいと思います。



第3回民具研究講座で発表する宮本常一(1975年11月23日)



能登半島の上時国家での襖下張文書の調査(1994年8月)

■ 関連事業

① 出版記念トークイベント

『書物から渋沢敬三を読む』書物学 第30巻 勉誠社

日時:10/4(土)14:00 ~ 15:30

会場:3号館1階 ミュージアムコモンズ・米田吉盛記念ラウンジ

② ギャラリートーク

日時:12/6(土)11:00 ~ 12:00

会場:3号館1階 企画展示室

解説:丸山泰明(日本常民文化研究所 所員)

③ 創立100周年記念事業日本常民文化研究所の100年 第29回常民文化研究講座

写真アーカイブがつなぐコミュニティ

日時:12/6(土)13:00 ~ 17:15

会場:3号館3階 305講堂(オンライン併用予定)

申込:①と②は、事前申込不要。直接会場へお越しください。

③は事前申し込みあり。ホームページをご覧ください。

■ アクセス

東急東横線「白楽駅」または
「東白楽駅」下車 徒歩13分

